

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

* 答えはすべて解答用紙に記入すること。

都会のゴミをあさるカラスは、どこでも評判がよくありません。よく聞いていると、カラスもいろいろと異なる鳴き声を出します。たまには、「パコン、パコン」などというおもしろい音声を出している個体もあります。しかしカラスの「カアカア」という大声はたしかに耳障りですし、誰もこれを「さえずり」とは呼ばないでしょう。一方、ウグイスの「ホーホケキョ」という声や、カナリヤやジュウシマツの美しい鳴き声は、私たちの耳にも心地よく、こちらは「さえずり」と呼ばれます。

さえずりと鳴き声はどこが違うのでしょうか？ さえずりとは、

1 で、おもに雄が繁殖期に発するものをさします。

す。それに対して、鳴き声とは、短く単純な音声で、雄も雌も発し、とくに季節が限られていないものをさします。この区別はそれほど厳密なものではありませんが、伝統的に使われていますし、機能の違いをよく反映していると言えます。

鳥たちは、なぜさえずるのでしょうか。答えは、春になればウグイスと言われるように、鳥のさえずりに
2 があること、そして、雄しかさえずらない鳥が非常に多いことから推測されます。鳥がさえずるのは繁殖期で、さえずりの機能は繁殖と密接に結びついています。さえずりの機能は二つあり、なわばり獲得のための雄どうしの競争で、「ここが私のなわばりだ」ということを宣言することと、雌に対して自分の魅力を誇示することです。

では、まず、なわばり獲得と宣言に関する機能について調べてみましょう。さえずりは、雄どうしの闘いにおいて、なんらかの役割をはたしているのでしょうか？

さえずる鳥のいくつかの種類では、なわばりを維持するために、つねにさえずっていないなければならないことは、昔から知られていました。しかし、そのことを確かめるためには、なんらかの実験をしてみなければなりません。そのような実験の最初は、北米に生息するハゴロモガラスという鳥でおこなわれました。なわばりを持つてさえずっている雄をつかまえて、鳴管（人間の咽喉に当たる部分）につながつている神経を切るなどの手術をし、他の点では元氣だけれどもさえずれないという状態にし、またもといた場所に戻しました。その結果、そういう雄だけのなわばりでは、さえずる雄のいるなわばりよりも三倍近くも頻繁に、他の雄からの進入と攻撃を受けたのでした。そのうちの何羽かは、実際に自分のなわばりを他の鳥に奪われてしまいました。

イギリスの研究者のジョン・クレブスは、オックスフォードのワイタムの森に生息する
① シジュウカラを対象に、巧妙な実験をおこないました。彼は、実験をする森の一面になわばりを持つている雄を全部捕まえて、みな取り除きました。そうして持ち主がいなくなった場所を三つに分け、一か所は、そのまま空にしておきました。もう一か所は雄の持つていたなわばりの中に四つのスピーカーとテープレコーダーとをぐるりと配置し、その雄のさえずりが時間をおいてあちこちのスピーカーから流れるようにしました。残りの一か所は、同じように一つのなわばり当たり四つのスピーカーを配置したのですが、そこから流す音は、雄のさえずりではなく、ピーピーという単調な笛の音にしました。

そうしたところが、実験を開始してたった八時間ぐらいの間に、持ち主がいなくてさえずりも聞こえないという区画と、笛の音がするだけという区画には、さっそく新しい雄たちが入り込んでなわばりに乗っ取ってしまいました。一方、スピーカーでさえずりを流している区画には、誰も侵入しませんでした。しかし、
A スピーカーによるはつたりは、そう長くは持ちませんでした。二日もすると、いくらスピーカーでさえずりを流しても、本人がいけないことが明らかにたつらしく、すべてのなわばりは、他の雄によって占有されてしまったのです。

この他にも、いろいろな鳥でたくさんの実験がおこなわれてきました。クレブスの実験が示しているように、さえずりだけで本人がいなければ、やがては侵入されてしまいますが、なわばりを維持していくにはさえずらないといけないことは確かなようです。

② さえずりが雄同士の競争におけるなわばりの維持にたしかに役立っていることがわかりました。それでは、さえずりは、雌に対する求愛の歌としての働きもあるのでしょうか？

シジュウカラの雄は、つれあいの雌が決まるまではよくさえずりますが、つれあいが決まると、ずいぶんさえずる頻度が低くなります。そこでつれあいの雌を
3 に取り除いてみたところ、雄はまた、さかんにさえずるようになりました。そして、つれあいを戻してやると、またさえずりの頻度は低くなったのです。このことは、シジュウカラのさえずりが、雌をひきつけるための機能も果たしていることを推測させます。

さえずりが雌に対する求愛の歌であり、それは、より美しく歌う雄を雌が選ぶという、雌の選り好みによって進化したと述べたのは、ダーウィンでした。しかしながら、さえずりが雌へのアピールであるということが確かめられたのは、かなり最近のことで、一九八〇年代になってからでした。

鳥というのは、どういふ感覚で世界を見ているのかよくわからないところがあつて、
B 木彫りで色もそっくりに塗った模型を置いておくと、簡単にだまされてやってきます。私は、マダガスカルへ行つたとき、友人の研究者が、雌のマダガスカルサンコウチョウの精巧な模型を置いておくと次々と雄をおびき寄せて捕まえるのに感嘆したものです。しかし、雄の模型を置いておくときには、横でさえずりを流したときと流さないときでは、流したときの方がずっと多くの雌がやってきます。

また、先に紹介した、鳥の雄に簡単な手術をして鳴けないようにする実験でも、さえずらなくなった雄のところには、雌が来ないことがわかりました。しかも、その後、この同じ雄を再びさえずりができるようにしてやると、最終的には雌を獲得することができたので、さえずるかさえずらないかが、雌をひきつけるために非常に重要であることは確実でしょう。

それでは、ダーウィンが考えたとおり、雌は、より複雑で美しいさえずりを発する雄を選んでいるのでしょうか？

③ これまでに、ア さまざまな種類の イ 鳥に対して ウ おこなわれた エ 一連の実験によると、たしかに雌は、より複雑な歌をさえずる雄をオ 選んでいるようです。スゲヨシキリでは、複雑な歌をさえずる雄ほど、繁殖期に雌と早くつがいにすることが出来ます。ウタズメでは、雄の歌の複雑さの度合いを測定し、その雄たちがどのように繁殖するかを観察したところ、複雑な歌をさえずる雄ほど、繁殖期の早い時期から雌とつがいにすることができ、生涯に残したヒナの数も多いことが示されました。

また、雌たちは、複雑な歌を聞いたときほど、巣作りを熱心におこなうことも知られています。私の友人の岡ノ谷一夫さん（千葉大学）は、ジュウシマツの歌の研究をしています。雌は、複雑な歌を聞かされたときの方が、単純な歌を聞かされたときよりも、さかんに巣作り材料を運びました。

ここでおもしろいのは、ジュウシマツの原種であるコシジロキンパラです。ジュウシマツは、江戸時代に日本に輸入されて家禽化（カキん）家畜として飼育）されたのですが、その原種は、南アジアにいるコシジロキンパラという鳥でした。コシジロキンパラは、ジュウシマツに比べてずっと単純な歌しかさえずりません。ところが、コシジロキンパラに、人工的にジュウシマツに似せ、^C 複雑に作り上げた歌を聞かせたところ、雌は、普段よりもずっとたくさん巣材運びをしたのでした。

これらの実験や観察から、ダーウィンの考えたとおり、鳥の雄の複雑なさえずりは、4 の対象であり、それによって進化したと考えてよいでしょう。

しかし、なぜ、雌は、より複雑なさえずりをする雄を配偶者として選ぶのでしょうか？これに対しては、いまのところ考えられているシナリオ（＝筋書き）の一つは、^④「ハンディキャップの原理」と呼ばれるものです。複雑なさえずりも、大きくて美しい飾り羽もそうですが、このような、生存に直接関係ない余分なものを生成するには、余分なエネルギーが必要です。当然ながら、個体を持つエネルギーには限りがありますから、そんな余分なものに回せば、生きていくのに必要な分が減ってしまうでしょう。つまり余分なものはハンディなのです。

そこで、本当に元気がよくて、病気にも強く、力と活力のある雄のみが、このような余分なものにエネルギーを使うことができるのではないかと考えることができます。さえずりや飾り羽などの余分なものがどれほど立派であるかを見ることによって、雌は、本当に元気で活力のある雄を見分けているのではないか、余分なものは、雄の力や活力を正直に表す指標となっているのではないか、というのがこの考えです。

さえずりの美しさ、複雑さについて言えば、複雑なさえずりを生成するためには、脳のさえずり中枢の神経ネットワークが発達せねばなりません。そんなことができるためには、一般的には健康でなければなりません。また、複雑なさえずりを長く歌い続けるには、たいへんなエネルギーが必要です。とくに、明け方などは、一晩中食べていないところさえずるので、よほど体力がなければできません。さらに、一生懸命鳴いていると、捕食者をひきつけることにもなります。また、寄生虫にたかられていると、歌のレパートリーが減ることも知られています。それやこれやを生き延びて、まだ美しい声で複雑な歌をさえずるといのは、元気さと活力の現れでしょう。

雌は、このような性質に着目して配偶相手を選ぶことにより、元気のいい雄とつがいになることができます。このような元気の良さに遺伝的な基盤があれば、雌が生む子どもも、その元気を受け継いで元気な個体になるでしょう。実際、雌に配偶者を選ばせてできた子どもの生存率と、ランダムに（＝適当に）配偶相手を割り当ててできた子どもの生存率を比較すると、雌が選んだときの方が、子の生存率が高いという実験結果もあります。
（長谷川眞理子『生き物をめぐる4つの「なぜ」』）

問一 1 にあてはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア かなり遠くまで響きわたる音声 イ かなり人間の耳になじんだ音声

ウ かなり繊細で変化に富んだ音声 エ かなり長く続く複雑な音声

問二 2 にあてはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 共通性 イ 地域性 ウ 季節性 エ 連続性

問三 線部①「シジュウカラをくおこないました」とありますが、この実験で分かったこととして、正しいものにはA、正しくないものにはBで答えなさい。

ア 雄の鳥は、さえずりが聞こえている間は、なわばりに近づかない

イ 雄の鳥は、さえずりとそれ以外の音を聞き分けることができる

ウ 雄の鳥は、持ち主の存在に気づくと、なわばりをめぐって争う

エ 雄の鳥は、持ち主のさえずりや姿がなければ、なわばりに侵入する

問四 線部A～Cのすべてに共通する要素は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 鳥の習性を試す仕掛け イ 鳥の行動を制限する仕掛け

ウ 鳥の繁殖をうながす仕掛け エ 鳥の生存率を高める仕掛け

問五 線部②「さえずりがく役立っている」とありますが、これは「ハゴロモガラス」を対象とした実験では、どのようなことから確認できますか。四十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問六 3 にあてはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 具体的 イ 多角的 ウ 実験的 エ 機械的

問七 — 線部③「これまでに」とありますが、この言葉が直接かかる言葉は何ですか。 — 線部ア〜オの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

問八 4 にあてはまる言葉を本文中から六字でそのまま抜き出さない。なお、句読点や記号なども一字に数えます。

問九 線部④「ハンディキャップの原理」について、次の(1) (2)の問いに答えなさい。

(1) 雄にとって「ハンディ」となるのは、どのようなものですか。具体的に述べている部分を本文から二つ探し、それぞれ十字以内でそのまま抜き出さない。なお、句読点や記号なども一字に数えます。

(2) 雌が、より複雑なさえずりをする雄を配偶者として選ぶ理由を、「ハンディキャップの原理」に基づいて七十字以内でわかりやすく説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は八月の終わりに九月の初めへかけての、夏の終わりのごく短い何日かが好きである。殊にその期間の海浜が好きである。私が特にこの季節が好きなのは、私が、夏場だけ海水浴場で賑わう半島の漁村を故郷に持っていて、そこで生い育ったからである。実際の期間は村の大人たちにも、子供たちにも、土地の人間としての一種異様な感慨が湧き起こって来る時期である。やつとのことで、自分たちが自分たちのものを取り戻そうとしているといった気持ちである。村の家々も、道路も、郵便局も、海岸も、船も、ようやく自分たちの手に戻って来ようとしているという感慨である。子供たちは、急に A とした眼つきになり、今まで何となく気がひけて、片隅で小さくなっていた浜を、全裸の姿でたれ憚ることなく走り回り出す。美しい水着や、浮標(＝水面に浮かばせておく目印・ブイ)に羨望(＝うらやましく思うこと)の瞳を向けることも要らない。板子を抱えて行つては波を切る。とうもろこしを手にもったまま、海へ入って行く。大方の避暑客が引き上げて行つた後に残っているのは、いやにひっそりとした歩き方で朝夕の海岸を散歩する老人か、弱々しい女か、とにかく、あまり夏の間中活躍しなかった連中で、どことなく敗残者の面影をその顔つきか姿態に持っている。昼間は顔を出さず、陽の出る前か、陽が落ちてから、風に吹かれに海岸にさまよい出て来る人種である。村にはこんな人ただけしか残されていない。

私が、砧きぬ子という少女雑誌から抜け出したような病弱な少女に、初めて思慕の情を燃やしたのもやはりこの夏と秋の、二つの季節に挟まれた期間のことであった。その時私は小学校の四年か五年だったので、十一、二歳であったわけである。私は、村で一番大きい旅館の離れ全部を借りている少女の一家を、彼等がこの村へやって来た七月の終わりに知っていた。その角屋という旅館が、私の親戚筋に当たっていたからである。私の両親はよく食事の時、角屋の別棟の離れ全部を借り切っている東京の避暑客に驚きと敬意の念を払いながら、彼等について 1 噂をしていた。毎日西瓜を食べているとか、牛乳を何本取っているとか、自動車を手借り切つて岬の方へドライブしたとか、そんな田舎の生活ではちよつと考えられぬ贅沢な暮らし向きの噂であった。私は家人によつてなされるそうした砧家の噂の中で、大切に育てられている一人娘に関するところだけに耳を傾けた。その娘の名前がきぬ子というのだということ、そして彼女が病身で、そのために一家をあげて避暑に来ているのだということなどを、私は母の日から知った。

「あの嬢ちゃんは、大きくなったら大した別嬪(＝美人)もんだ」

母がそんなことを言った時、子供心に私もまた同感だった。しかし、少年の私が砧きぬ子という自分より二つ三つ年長 ①らしい少女に、異様な執着と思慕の情を燃やしたのは、もう数える程しか避暑客が村に居なくなつた八月の終わりだった。砧きぬ子の姿は、私の眼に、その頃になつて初めて、一人の美しい少女として身近に映つて来たのである。それまで何回となくその少女を見掛けてはいたが、全く違つた世界の、一個の贅沢で高価な人形としか見ていなかった。都会の多くのきらびやかな物が村から引き上げて行つてから、②急に私たちは一人前の子供としての資格を取り戻したようであった。そしてそんな私たちの前に、彼女の方は天上から地上に降り立って来たのであった。

海浜が寂れ、私たちが自分の海浜を取り戻した時、私は初めて、その少女を 2 として見出したのであった。私ばかりではなかった。村の子供たち全部が、私と同じようであった。と言うわけは、彼女が海浜へ姿を現すと、私たちは、不思議な力に作用されてうわあと言つて ③はやし立てた。三、四人の時は黙っていたが、十人以上になるといつもいっせいはやし立てた。七つ八つの一年坊主までが、上級生に倣つて、喚声を上げた。

「おい、辰二郎、おまえ、きぬ子の奴をひと回りして来い」

餓鬼大将の私が言うと、三年生の辰二郎は波打ち際を歩いているきぬ子の方へ真つ裸で駆け寄り、彼女をくるとひと回りして駆け戻つて来る。

「次は太郎だ!」

すると魚屋の末っ子の四年生の太郎は、これも真つ裸で駆け出す。そしてこの方は一っだけ年長の貫禄を示して、彼女の前で、一つでんぐり返つてみせて、そして跳ね起きると、奇声を上げて駆け戻つて来る。次に一年坊主が三人より駆け寄り、一人は石につまずいて泣き出し、一人は彼女につかまって、頭をなでられて、これも泣き出し、一人だけが、何か知らぬが息を弾ませ興奮して駆け戻つてくる。

「姉ちゃんが睨んだ」

彼は、私に報告する。

「どんな顔をして睨んだ」

「怖い目をした」

3

。あんな美しい顔がどんな怖い顔をしたろうと思い、④ 私はう

わつとありつたけの声を張り上げて叫ぶと、そのまま波打ち際に突進し、波に体をぶっつけて、潮の中に頭を先にしてもぐって行く。こんなことは毎日だった。砧きぬ子が朝と晩の散歩の他に、昼間三時から四時頃の間、海岸を散歩するのを日課として知っていることを知っていたので、私は学童たちを集めて、海水浴場の外れの方でいつも彼女を待っていた。砧きぬ子はたいていの場合一人で散歩したが、ごくたまに母らしい人に連れられて姿を現した。そんな時は、私たちは何もなかった。彼女がこちらに近づいて来ると、私たちは海の中へ避難した。そして板子につかまって、波に揺られながら、遠くの方から彼女を窺った。

「あいつ、今日はやつつけられないで癪だな！」

私はそんなふうと言った。他の四、五年生もみな、妙にぎらぎらした眼を彼女の方へ向け、

「大人といっしょに来ていやがる！ よおし、明日覚えてろ！」

そんなことを言った。私たちはまるで彼女に恨みでも持っているかのようなのであった。如何なる種類の仇敵か知らなかった。しかし、不倶戴天（「一緒にこの世に生きられないと思うほど恨みの深いこと」という言葉の意味に近いものを、彼女が持っていることは明らかだった。そのままにはして置けないような美しいものを、その都会の少女は持っていたのである。砧きぬ子は色が白く、眼が大きく、髪はおかつぱにして、いつも着物を着ていた。私たちの眼には彼女はひどく大人びて見えた。

「角屋の離れに、この魚をとどけて来い」

私は父から命じられた。

「取り立ての、とれとれですって言っつてな。そして五十銭貰つて来い」

そんなふうには父は言った。夕方だった。私は尻込みした。その魚は、砧家から今朝父が依頼されて釣つて来たものであることは、私も知っていた。⑤ 私は何とか理由をつけて、この役目から放免されようと思った。しかし、

「行つて来いと言つたら、行つて来い」

と、父から頭を一つこづかれると、その命令に従う以外仕方がなかった。私は二、三匹の魚を入れたザルを持って、砧家へ出掛けて行つた。角屋の表門から入り、勝手口の横を通つて、離れの縁側の方へ回つて行つた。

「魚を持って来ました」

私は縁先の物干しの棒のところ立ち止まって、⑥ よそ行きの言葉で言った。そこからは内部が覗かれなかった。家の中に、誰かが居るか全然判らなかつた。私はただ家の内部へ向かつて、声をかけたのであった。何の返事もなかった。

「魚を持ってきた！」

こんどは、私は大きい声で叫んだ。と、砧きぬ子の顔が縁側から覗いた。

「a 》」

彼女は言うのと庭へ降りて来て、ザルの中を覗き込み、

「b 》」

そう言つてから、

「c 》」

と奥に叫んだ。

「d 》」

彼女は言った。私は口がきけなかつた。彼女は私より少し背が高かつたが、近くでみると、いつも私が思っていたよりずっと子供っぽかつた。私がザルを地面の上に置くと、彼女はそこに屈み込み、小さい棒切れを拾つて、それで魚の肌をつついた。そんなことをしている彼女を、私は上から見降ろしていた。私はそれまでに、そんな華奢な白い手首を見たことはなかつた。首も細く、その細い首の上にオカッパの髪がきちんとそろえて切られてあつた。間もなく、彼女の母親が、これも縁側から降りて来ると、

「くろうさんね。お幾ら」

と言つた。私はこの魚の代金を受け取るのが、何か恥ずかしかつた。ひどく卑賤（「いやしい」）な行為のような気がした。

「いいです」

と私は言った。

「よくはないわ。お幾らですつて」

「父ちゃんが上げておいでつて」

私は 4 言つた。すると、

「まあ、それは、お気の毒ね。よくお礼を言つて頂戴ね」

彼女の母は言った。私が彼女の母と話をしている間に、きぬ子は私のところから離れ、縁側から部屋の中に上がつて行つた。私は夕食の時、父からひどく叱られた。私は代金の五十銭を、途中でどこかへ落としてしまったことにしていた。

「使いひとつできないでは困るじゃあないか」

父は、いつまでも同じことを、

B

言つた。私が父から叱られている最中、角屋の女中が、砧家から頼まれたと言つて、パイナップルの缶詰を一個持つて来た。

「代金を取って戴けないので、これがお礼ですって」

と女中は言った。女中が帰ると、私はまた新しく父から怒鳴られた。

「どういう了見（りようけん）（＝つもり）で嘘（うそ）などつきやがるんだ」

父は私を睨みつけたが、しかし、父はこんどは長くは怒っていないかった。魚二、三匹と、めったにお目にかかれぬ果物の缶詰とでは、決して損な取り引きではなかったからである。私は、夕食の膳（ぜん）を離れると、直ぐ家を出た。足は海岸に向いた。もう浜はとつぷりと暮れて、海面には幾つかの漁火（いさりび）がまたたき始めていた。
(井上靖「晩夏」)

11 昇華①

問一 **A** と **B** について、それぞれに当てはまる言葉は何ですか。次のア～カの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア ずけずけ イ わくわく ウ はきはき エ がみがみ
オ どうどう カ いきいき

問二 **1** には、「まとまりがなく、要点がはっきりしない」という意味を持つ、慣用的なひとまとまりの言葉が入りますが、それは何ですか。ひらがな七字で答えなさい。

問三 線部①「らしい」とありますが、これと言葉の使い方が同じものはどれですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 中学生らしい服装をする イ 南国らしい温暖な気候です
ウ 彼女が欠席するのはめずらしいことだ エ 会社で何かあったらしいね

問四 線部②「急に私たちはさうであった」とありますが、「私たち」がどのようになったことを表していますか。五十字以内でわかりやすく説明しなさい。

問五 **2** に当てはまる言葉は何ですか。最も適当な言葉を問題文中から探し、十字以内でそのまま抜き出しなさい。なお、句読点や記号なども一字に数えます。

問六 線部③「はやし立てた」、⑥「よそ行きの言葉」について、それぞれのどのような意味ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

③「はやし立てた」

- ア いっせいに大声を出して驚かした
イ 夢中になって何度もからかった
ウ 大勢が声をあげて冷やかした
エ それぞれが声を出してふざけた

⑥「よそ行きの言葉」

- ア 他家を訪問する時の丁寧な言葉
イ 普段とは違う改まった言葉
ウ 緊張したときに出てくる言葉
エ 他人にもわかるように話す言葉

問七 **3** に当てはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 私には不思議な出来事のように思われて仕方なかった イ 私にはいかんともしがたく感じられた
ウ 私には意外にも不満を感じさせるものであった エ 私には何か知らぬが十分満足だった

問八 線部④「私はうわっともぐって行く」とありますが、この時の「私」はどのような気持ちでしたか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 好意を寄せている少女をからかい、かえって相手に嫌な思いをさせたと反省している
イ 気になっている少女の目を自分たちの方に向けさせることができて、喜んでいる
ウ 美しい少女の気を引くことはできたものの、この後どうしていいかとまどっている
エ 都会で育ったあこがれの少女とこれから親しくなれそうだと感じて、うれしく思っている

問九 線部⑤「私は何とかうと思つた」とありますが、「私」がこのように思つたのはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 仲間に内緒で自分だけきぬ子の所に行くことに後ろめたさを感じたから
イ きぬ子の家とくらべて貧しい自分の生活を恥ずかしいと思つたから
ウ 自分たちの遊ぶ場所に入ってきたきぬ子たちを許すことができなかったから
エ 毎日のように皆で冷やかしているきぬ子に会うのはきまりが悪かつたから

問十 **a** **b** **c** **d** について、それぞれに当てはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 母さん、お魚ですって！ イ まだ生きているわ ウ 何ていうお魚 エ あら、お魚？
問十一 **4** に当てはまる言葉は何ですか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。
ア がっかりしたように イ おこつたように ウ ほこらしそうに エ じれつたそうに

三 次の①～⑥の 線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 情報をテイキョウウする ② 選手センセイをする ③ 楽器をカナでる ④ 明日までにヘンサイする
⑤ ジンギを重んじる ⑥ 期限までにノウゼイする

*の欄には何も書かないことちゃん

*